

ほっこりひろば・ほっこりひろば実行委員会／A地域

資料 5



[経 過]

東光圏域の第2層協議体で「高齢者・障がいのある方など、どのような人でも通える居場所の必要性」について地域住民や専門職から意見が挙がり、通いの場や居場所が少ない地区で福祉事業所を会場とした「ほっこりひろば」を令和7年1月にプレオープンした。令和7年度から実行委員会を作り、企画・運営を行っている。

[メンバ－]

- ・地域住民（ボランティア、民生委員、市民委員会、地区社協）
- ・有限会社ほほえみ・東光地域包括支援センター
- ・旭川市社会福祉協議会

[目 的]

- ・地域住民の閉じこもり防止
- ・どのような方でも通うことができる居場所の提供

[内 容]

- 前半30分 音楽体操
- 後半1時間半程度 自由時間 交流、ゲーム、読書、映画鑑賞など

実績

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・開催した地域は、利用できる会館がない地域であったが、協議体に参加している福祉事業所が会場を提供してくれることになり、協議体のメリット、強みを再認識することができた。
- ・役割分担を行い一部の実行委員の負担にならないように配慮したため、ボランティアや福祉事業所の負担が軽減され、継続性のある活動となっている。
- ・福祉事業所を会場にしたことにより、温かい雰囲気づくりや豊富な備品の活用など、福祉事業所の良さを共有できる居場所となっている。

○難しかった点・今後の課題

- ・運営の自主化を目標とし、協力してくれる地域住民や団体、福祉事業所を募ることはできているが、主体的に活動を担う人や団体にはなっていない。
- ・運営の財源が参加費のみであるため、安定した財源の確保が必要となっている。

総括

現在、自主化に向けて、活動を継続しているところであり、協力いただいている機関や地域住民の活動への理解も徐々に得られてきている。そのため、引き続き実行委員会のなかでそれぞれの意見を取り入れながら、次年度以降の自主化を目指していきたいと考えている。

今後は、地域まるごと支援員が主導するのではなく、実行委員が主体的にできるように、各参加者の合意形成を図っていくことが重要であると考える。

新旭川地区社会福祉協議会 地区ボランティアセンターの設置に向けた取組／B地域

新旭川地区には地域居場所づくり推進委員会がある！！

○委員のメンバー構成は…

「新旭川地区市民委員会」、「新旭川地区民生委員児童委員」
「新旭川地区社会福祉協議会」、「社会福祉法人」、「福祉事業所（障害、高齢：4事業所）」、「新旭川・永山南地域包括支援センター」、「地域まるごと支援員」がメンバー。

地域居場所づくり推進委員会で立上げと運営に係る協力が可能



地区ボラセン事業立ち上げ(新旭川地区社協)

[経過]

新旭川地域居場所づくり推進委員会（協議体）で、メンバーから「旭新おたすけ隊」の活動をほかの町内会にも展開できないかと意見があり、令和4年から地区ボランティアセンターの立ち上げに向けて検討を開始した。

検討を重ね、市民委員会の協力を得て「未来プロジェクト・生活困りごとアンケート」を実施したところ、258人から除雪やゴミ出しなどのボランティアに協力ができると回答があった。

この結果を協議体で情報共有し、メンバーが活動をバックアップする形となり、新旭川地区ボランティアセンターの立ち上げに向けた話し合いを行っている。

[メンバー]

地区社会福祉協議会、地区市民委員会、地区民生委員児童委員協議会、旭川市地域活動推進課、新旭川・永山南地域包括支援センター、ツクイ旭川東、地域活動支援センターあしすと、地域密着型特別養護老人ホーム新富宏生苑、緑ケアライフサービス

[目的]

- ・地区ボランティアセンターを設置し、「ちょっとした困りごと」をテーマに、除雪やゴミ出しなどの困りごとを、身近な地域で解決できる仕組みづくりを目指す。
- ・地縁組織だけに頼らない助け合いの仕組みづくりを目指す。

[内容]

- ・5つのブロックに分類し、地区ボランティアセンターを設置し、各ブロックにコーディネーター役を配置することを検討している。



実績

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・地縁組織と行政・包括・福祉事業所・地域まるごと支援員が一体となって協議を進めていることで、さまざまな視点から意見を聞くことができた。
- ・新旭川地域居場所づくり推進委員会や、地区ボランティアセンター事業説明会のなかで、事業の主旨を丁寧に確認しながら進めたことで、地域住民による主体的な活動に繋がっている。

○難しかった点

- ・主体となって進める人（組織・団体・機関）が決まるまでに時間がかかった。

○今後の課題

- ・現在の担い手が高齢化しており、事業を継続していくための工夫が必要である。

総括

地域の負担のみが大きくならないように新旭川地域居場所づくり推進委員会と協力し、地域の困りごとを自分ごととして地域で支え合う体制を目指す。

未広東地区「やっぽうサロン」／C地域



[経過]

- ・令和4年度：サービスや通いの場に繋がっていない、閉じこもりがちな高齢者を対象とする通いの場として、ミニサロン「未広東げんき会」が開設。
- ・令和7年度：老人クラブの活動と名称が重複していたことから、2つの町内会から1文字ずつ取り「やっぽうサロン」に改名。

[メンバー]

- ・八親町内会　・東水穂町内会　・未広東地区民生委員
- ・未広・東鷹栖地域包括支援センター　・地域まるごと支援員

[目的]

- ・閉じこもりがちな高齢者の社会参加の機会とする。
- ・他のサロンに通うことが出来ている方は対象外とし、大人数や賑やかな場を苦手とする方にとっての通いの場とする。

[内容]

- ・奇数月の第4火曜日に未広東つつじ会館にて開催。リハビリ体操指導士による体操やカーリンコンを行っている。参加者は平均10名程度。
- ・要介護（支援）認定を受けているがサービスに繋がっていない方や、通いの場に繋がっていない方を地域包括支援センターで抽出し、民生委員と共有の上、一緒に訪問することでサロンの周知・案内を行っている。

実績

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・参加者にとって社会参加や閉じこもり解消の機会となっており、通いの場としてのニーズがある。
- ・サービスが必要と思われるが拒否が見られる高齢者にとってつながりを持つきっかけとなり、また、まだ元気な方にとっても「今からつながる」ことで介護予防になっている。
- ・一般的なサロンとは対象者が異なるが、メンバーが目的を共有できていることで一貫性のある活動を継続することができている。
- ・地域の方々にサロンの主旨を広く理解されるきっかけとなった。

○難しかった点・今後の課題

- ・人数が増えすぎると他のサロンと差別化できなくなる。又、現在の参加者が利用しにくくなる可能性がある。
- ・現在の参加者が来れなくなった場合、どのように活動を続けていくかを考える必要がある。
- ・町内会で会場料を負担していたが、改名時に運営体制を見直し、いごいの家の申請により無料となっている。今後も活動を続けていくために、町内会と一緒に定期的な振り返りや課題共有の場を設けることが必要。

総括

- ・認知機能の低下や福祉サービスに繋がることで参加者が減少していたが、令和7年度は対象者を見直し、町内会の協力もあって参加者が増加した。また、男性参加者が増えたことで男性同士の交流が活発化している様子も見られている。高齢者の社会参加や通いの場の必要性が高まる中、集団の場を苦手とする参加者にとってこのようなサロンには一定のニーズがあり、同様の取組が市内に広がるよう周知を図りたい。

グリーンスマイル（第2層協議体）／D地域

[経過]

平成29年から、“緑が丘を笑顔にする活動を話合う場”として実施。話合いからは、買い物支援バスや多世代交流イベント、学習支援の場等、様々な取組が生まれている。

[メンバー]

緑が丘地域住民、ボランティア、学生、保育所、学校、福祉事業所、商店会、地区社協、市民委員会、民生委員、まち協等

[目的]

緑が丘がより住みやすい地域になることを目指して、緑が丘地域の住民・ボランティア・関係機関が集まり、地域課題解決に向けた取組や緑が丘を笑顔にする活動を話合うことを目的に開催

[内容]

グループワークによる話し合いを中心に、参加者間で意見交換を行い、緑が丘に不足していることや良いところ等の情報を共有しながら、必要な取組を検討している。直近では緑が丘地域の良いところとして挙がった“学生や教育機関が多い”“医療や福祉が充実している”という点を活かして、学生によるスマートフォン相談会及び、医療福祉分野を中心とした職業体験の取組を実施した。



実績

(事業・活動の実績)

○良かった点

- ・参加者を限定せず、地域内の住民や事業所、学校等へ幅広く周知したことから、世代や職種を問わないメンバーが集まり、多様なつながりが出来た。
- ・協議の結果、“地域の良いところ”に関する意見が多く出たため、既存の地域資源を活かした形で取組を実施することができた。
- ・協議体の話合いから生まれた取組であるスマホ相談会では、地域の中高生や学生の活躍により、参加者（高齢者）から「大変助かった」「また開催してほしい」といった声が挙がっている。

○難しかった点・今後の課題

- ・参加者が参加しやすい日程が、所属や世代によって異なるため、開催日時の設定が難しい。
- ・協議体への参加者が固定化してきているため、こういった地域活動へ参加しやすくするために、今後はチラシや周知方法の工夫が必要だと考えている。

総括

今後も定期的に協議体を開催し、縁が丘がより住みやすい地域になることを目指して話合いを継続していく。今回実施したスマホ相談会及び職業体験の取組については、参加者やボランティア活動者の感想・意見を反映させ、地域において自主的で継続的な取組にしていけるよう調整したい。